



国立大学法人

群馬大学留学生センター



これから日本での就職をめざす留学生の皆さんへ
先輩からメッセージ—

群馬大学留学生 就職報告会2007

アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業
(経済産業省・文部科学省 委託事業)

—これから日本での就職をめざす留学生の皆さんへ先輩からメッセージ—

群馬大学留学生就職報告会2007

アジア人財資金構想高度専門留学生育成事業（経済産業省・文部科学省）

1. なぜ「留学生の」就職報告会か？

少子化、人口減の問題がいよいよ深刻になりつつあるわが国において、この数年、留学後、日本で就職する留学生は着実に増えてきています（日本学生支援機構2007）。本校においても、留学生相談の場に就職に関する相談が頻繁に寄せられるようになり、多くの留学生が日本での就職を希望していることを感じました。しかしながら、留学生の就職は言語の問題、ビザや手続きの問題、日本企業風土への理解、就職活動の複雑さや時期の出遅れなど、一般の日本人学生と比べて、サポートが必要な部分があると思われました。そのサポートの一貫として、今回、留学生のための留学生による就職報告会を開くことになったのです。なお、この報告会は平成19年度から実施されているアジア人財資金構想プログラムにおける専門教育の一環として行われました。



2. 何が行われたか？

実施は12月7日金曜日の10:20～12:00までの時間を使い、総合研究棟501号室で行いました。開会の挨拶の後、先輩留学生による「就職活動報告（4名）」が行われました。その後、参加者からの質問票を回収しまとめたうえで、先輩留学生4名によるパネルディスカッションを行いました。質問内容のうち、重要なものについてそれぞれディスカッションしました。最後の時間には会場を2つのグループに分け、先輩留学生を交えたフリーグループディスカッションを行いました。4名の先輩の就職報告はそれぞれに個性があり、具体的で有用な情報がたくさんつまっていました。留学生としての強み、弱み、自分なりの会社の選考基準、日本の会社の特徴、また就職活動への心構えなど実体験に基づいた熱いスピーチでした。また、グループディスカッションでは、後輩から次々にいろいろな質問が出たり、先輩からは、どうやって実際に試験や面接をのりきったか、日本語の不十分さをどう克服したか、どんな話で面接官の興味を引いたかなど貴重な話が披露されており、内容はとても興味深いものでした。今年度は広報不足で参加者があまり多くありませんで

したが、来年度はぜひ、多くの留学生、関係者の皆さんにご参加いただきたいと思います。

3. スピーチから学ぼう!

報告をしてくれた4人のスピーカーのスピーチは、留学生の参加者のみなさんはもちろん、普段留学生の支援を行う職員にとっても学ぶべきことがたくさんありました。それぞれの方のスピーチをまとめましたので、参加しなかった皆さんもぜひ参考にしてみてくださいね。

①アズヌール・アイシャさん



(国籍：マレーシア 学年：工学部4年 就職先：日東電工)

アイシャさんからは、まず、大学在学中における就職へのアプローチとして、インターンシップや会社見学の機会を逃さず、経験を重ねることが大切であることが話されました。また、情報を集めるのに、インターネットを使ったこと（パソナグローバル（留学生向け）、リクナビ（日本人向け））が説明されました。情報収集の大切さを実感しました。さらに、大変興味深い分析として、日本の大企業をめざそうとする場合、その構造を理解しておく必要があるというお話がありました。「生産」「開発」「営業」「品質管理」など4つの特徴的な部門をチャートで紹介し、日本の大企業では、自分が当初希望していた部署に必ずしも配属になるわけではないこと、また短いスパンでさまざまな部署を経験することがもとめられることなどが解説されました。大企業での就職を希望する留学生は多いですが、こういった日本企業の風土に関する知識や理解があったこともアイシャさんが複数の大企業の内定を取ることができた理由なのだろうなと感じました。

また、細かい部分では、就職の面接では、できるだけ自分の言葉で語ること、わからないことがあったらわからないと言うこと、外見やイメージにも気を使い、マナーをまもることの重要性も語られました。最後に、自分自身に自信をもつこと、そしてあきらめないでというメッセージを後輩に贈ってくれました。

アイシャさんの発表からは、働くということがどういうことなのかというクリアな認識と、相手を知るための方略と準備、そしてゆるぎない自分自身への自信を強く感じました。すばらしい発表ありがとうございました。

就職活動にむける準備

経験をたくさん重ねましょう

- ・インターンシップ
- ・見学

就職の情報を集めましょう

- ・インターネット（企業のHP）
- ・<http://www.pasonaglobal.com/>（留学生）
- ・<http://www.rikunabi.com/>（日本）

面接の前に

- ・履歴書（英語と日本語）、企業の下調べ
- ・自分のイメージを良くする（言葉使い、身柄）

大手企業の構造



(上) 就職活動への準備 (下) 日本の大企業の部門構造 アイシャさんの発表原稿から一部抜粋



② 銭志宏さん

(国籍: 中国 学年: 工学研究科修士2年 就職先: 日立カーエンジニアリング)

銭さんからは、はじめに、留学生として最も重要である「留学生であることの強み」についてお話がありました。留学生だから日本人と比較されると不安と思っているかもしれないが、留学生だからこそその強みもある、それは、日本ともう一つの文化をもっていること（言語的にも）や、日本の生活習慣に適應する適應力などであると語られました。後輩留学生にとって心強い言葉だったに違いありません。こういったアピールできる

「強み」を自分できちんと分析できていることも非常に重要なのだなと感じました。

次に、具体的な就職活動の開始時期について、ちょうど今頃(12月はじめ)から開始したことや、企業研究、面接の準備、SPIの練習、履歴書の準備などについて具体的に説明されました。銭さん自身の会社の選択については、何より国際的な展開があること、特に自分の国にビジネスを展開しているかどうかは大きなポイントであったということでした。また、就職活動が予想以上に長期的なものであることが強調され、活動中、友人が内定をもらったりすると、焦るし疲れも出てくるが、あきらめない、長期戦だと思って覚悟することが重要だということ、さらに、一つ内定をもらったら「はい終わり」ではなく、長期にわたって自分にあう職場、会社を探すため、じっくり取り組むことが必要であると語られました。

銭さんの発表ではまず、その日本語力、表現力の豊かさにその場にいた日本人も驚かされました。また、内容も苦労して内定をとった経験者だからこそその細かい配慮にあふれたアドバイスでした。就職活動を不安に思うときや、途中で投げ出してしまいそうなときにこそ銭さんの言葉が思い出されると思います。すばらしい発表ありがとうございました。

③黄海翔さん



(国籍:中国 学年:工学研究科修士2年 就職先:日本電産コパル電子)

黄さんからは、まず、社会人になるための心構えや外国で生活していくことになることへの覚悟なども含め、自己理解、自己内省することの重要さが語られました。ともかく有名な会社さがし、と飛びつきがちな留学生にとって大変重要なアドバイスだったとおもいます。

さらに、具体的な就職活動のお話の中ではとくに面接を中心に就職活動中の具体的方略が語られました。

まず、エントリーシートは第一の難関であり、重要なものであること、書いたエントリーシートは何回も修正したこと。また、SPIは繰り返しの練習が必要であることなど、さらに、面接は心理戦で勝つ(面接官の目を見る、自分の興味のあることばかり話さない)などが重要だと説明されました。具体的なお話が多かったので、メモをとっている学生も多かったようです。とくに面接について、人事担当は抽象的なPRにうんざりしていて、応募者の生の声を聞きたいと思っている。留学生は特に自分のことばでアピールすることが重要であると述べられました。最後に、「留学」と「仕事」を結びつけるための考え方について2つのメッセージを後輩に送ってくれました。

黄さんの発表では、具体的な内容も豊富で、実際の就職活動に非常に役に立つ内容だったと思います。また、後輩への熱いメッセージには黄さんの高い志を感じ、皆大変感動しました。すばらしい発表ありがとうございました。

面接は心理戦で勝つ！

〈人事担当は、抽象的な自己PRに、ウンザリ〉

採用担当は、応募者と会って話をすることが仕事の大部分で、毎日数十人、何百人の学生を面接する。



ありがちな志望動機では応募する意欲が薄いのではないかとと思われる。

例：『御社の自由闊達な社風と高い商品開発力、成長性などに魅力を感じ、その中で自分自身を成長させたいと考えています。』×！

ポイント：採用担当者は面接に来た人の生の声を聞きたい。

！！留学生は自分の言葉でアピールを！！

メッセージ

留学は、視野を広げるために行うものですが、ただ経験したというだけで終わらせないためにも、自分が経験したことを反芻してきちんと消化することが重要です。両文化に適応できる逞しい社会人になるのは言うほど簡単ではありませんが、『留学経験を持った社会人』としてはそういったバランスを身につける事が、自分の市場価値を高めることになるのです。自分自身の「国際性」に更に磨きをかけて欲しいと思います。

一度でも海外で生活したことがある人は、国に帰るか、このまま海外に残るかで迷う時がきっとあるはず。慎重にリサーチをしてプランを立てれば、『海外で働く』と『自分のやりたい仕事をする』の両方の夢が叶う道も見つかるはず。皆さんが留学を決めた時の高い志や想いを振り返り、学位取得後のステップに関しても自分なりの考えや意志をしっかりと持って、納得のいく選択をして欲しいと思います。

(上) 面接攻略法 (下) 後輩へのメッセージ 黄さんの発表原稿から一部抜粋



④李克さん

(国籍：中国 学年：工学部4年生 就職先：小倉クラッチ)

最後のスピーカーである李さんは、就職活動をどのような時期にどのように行ったのかがわかりやすく説明してくださいました。まず、自己分析と自己研鑽の時期として、情報収集(2007年1月に開始)、会社の絞り込みを行い、その後、エントリーシートを書き、3月下旬にいよいよ本番の筆記試験(機械に関する専門知識、英訳、和訳)、4月によく面接試験(人事、専門、確認)という一連の流れが説明されました。これから就職活動をはじめようという人にとって、就職活動の全体像が把握できたのではないかと思います。

います。中でも、注目されたのは、会社の絞込みについてです。李さんは、地元群馬県で就職を決定した理由について、グローバル展開をしている優良企業であるということは、第一条件だったが、それ以外では、もともと都会での生活は自分にはあっておらず、田舎での生活を望んでおり、自分自身のライフスタイルを見つめた結果だと語ってくれました。留学生の多くは、企業のブランド名に振り回されることが多く、自分に何ができるのか、何が自分にあっているのか、自分はどんなライフスタイルを望んでいるのかなどを吟味することが不十分だといわれています。李さんの落ち着いた決断は後輩の留学生にも大きな影響をあたえるのではないかと感じました。

李さんの発表は、非常にシンプルでありながら、重要な部分のつまった発表で、自分自身をよく知っている方なのだなと思いました。また、会社選びにも、就職活動の方法にもその人その人の個性が実に見事に反映するのだなと感じました。すばらしい発表ありがとうございました。

4. パネルディスカッションとグループディスカッション



後半に行ったパネルディスカッションでも、大変有意義なコメントがあったので、以下にまとめました。ぜひ参考にしてください。

会場からの質問に答えて：

①面接では実際、どんな質問をされるのでしょうか？

・なぜ日本で就職したいか（なぜ母国に帰らないのか）。

- ・なぜうちの会社に来たか（なぜ他の会社ではないのか）。
- ・今までに受けた会社の名前（べつにはかしょうじきに答えなくてもいい）。
- ・大学で取り組んできたこと（勉強以外で取り組んできたことも大事）。
- ・なぜ日本に留学したか。
- ・入社してからの将来の希望（リーダーになりたいか）。
- ・3年後何をしていたいか（3年でやめられたらこまるけど、君はどう？）。
- ・日本語だけの面接、英語だけの面接、日本語＋英語の面接があった。聞かれることは会社によって異なる。

②SPIは留学生には不利ではないでしょうか、どのような対策をとりましたか？

- ・本を買って対策を行う。繰り返しやるしかない。
- ・総合点より正解率を重視する。
- ・正確さと速さ（読む速さ、手を動かす速さ）が必要、つまりトレーニング。
- ・塗りつぶしながら次の問題を読むくらいの速さが必要。

- ・ SPIは一つの判断基準でしかない。これで決まるということではない。筆記よりは、面接で最終判断される。

③今はまだ就職活動時期ではないのですが、今から準備できることは何でしょうか？

- ・ 見学・インターンシップは早い時期から受け入れている。ぜひ行くべき。自分にあうかわらないか五感で感じることができる。
- ・ 自分が何に関心があるか常に意識する。
- ・ 夏頃学会に参加しておく（修士で研究職の場合）。研究力をあげる。
- ・ 資格を早めに取り（特にTOEIC）。日本語だけでできればいいのではない。英語力も重要。

④将来計画について教えてください。

- ・ 日本で1年研修を受けた後、国の支社に配属になる。日本で得た技術を国の職員に伝える役目（リーダー）だと思っている。研究部への配属が予定されている。
- ・ 具体的なものはないが、自分自身がグローバルな人材になりたいと思っている。日本に住むとか中国に住むとかそういうレベルでは考えていない。どの場面でも役に立つことのできる技術者でありたい。
- ・ 2つの文化に適応し、柔軟に動ける社会人を目指している。これから会社で勉強することはたくさんあると思う。
- ・ 将来の具体的な計画は今から。今は、とにかく日本でできることをしたい。5年から10年後は日本を離れるかもしれない。

最後の時間に30分ほどグループワークの時間を設け、学生は直接先輩に不安なこと、基本的なことによくわかっていないことをたずねたりしてもりあがった。その間、先輩留学生からくりかえされた言葉は「大丈夫だよ。」という励ましの言葉だった。



後輩：日本語がまだ…。
先輩：「大丈夫だよ。今の日本語で。心配する必要はない。見せかけの上手な日本語が必要なんじゃない。自分のいいたいこと、自分の意思がしっかりつたえられること、自分なりの言葉、オリジナリティ？が出せるかが大事なんだから。」

後輩：SPIって…??結局なんだかまだわかってないんですけど…。へへ。
先輩：基本の統一筆記試験って感じ。生協にいてごらん。対策本売ってるから。内容はどれでもにたようなもん。言語系、非言語系、時事系、一般常識があつてね…留学生にとってはね、言語系のところはまあまあやっついたほうがいい。最初慣れないから、それから…

後輩：自分の言葉で話すって…つまりどういう…??
先輩：あのね、たとえばね、なんであなた電気電子勉強しようと思ったの?って聞かれたの。で、「子供のころ自分でテレビをばらばらにしちゃって、でも、その中の機械構造をみて、「あ、かわいい」ってそう思ったんです。」ってエピソードを話したら役員も「わかるわかる」っておおうけでね、つまり何かしら自分で自分の情熱を語れるものを持って…

付記：報告会の協力者・就職経験者談

実は、グループディスカッションでは、他にも協力して下さった留学生がいました。また、理系の留学生だけでなく、文系の留学生の就職体験についてもあわせてここにまとめました。ぜひ文系の方もごらんになってください。

質問は以下の8つです。

「1. なぜ日本で就職しようと思ったのか?」「2. いつごろから就職活動を始めたか?何社くらい受けたか?」「3. 就職活動で一番大変だったことは何か?」「4. 就職のために在学中にやっておくべきことは何か?」「5. おすすめSPI対策本・就職サイト」「6. 就職先での配属」「7. 5年後のあなたは?」「8. 後輩へのメッセージを！」

孫 其中さん

(国籍：中国 工学研究科修士2年 就職先：NEC通信システム)

1. 日本での留学で学んだことを実際に生かして仕事をしたいと思いました。日本の企業文化にも興味があります。また日本語の勉強もまだまだ続けたい。そういった様々な学習意欲が日本での就職につながりました。
2. 2007年の1月ごろからはじめました。最終的には5社くらいの面接を受けました。
3. 時間と手間(交通)の問題です。大学から東京まで普通電車で3時間ほどかかるため、1日に1社しかまわれず、何度も東京へ行かなければなりませんでした。
4. まずは日本語と英語の能力の向上です。これはすぐにはできません。こつこつ早い時期からやってください。次に専門知識をいかに吸収するかということです。
5. ネットや本もいいですが、大学で行われる「合同就職説明会」が非常に役に立ちました。実際の企業の人に会うのが一番です。
6. ソフト開発部門だと思います。
7. 小さい会社を経営しているかな…と思います。
8. 夢と自信をもって！時間を有効に使い！

銭 麗さん

(国籍：中国 工学研究科2年 就職先：日立カーエンジニアリング)

1. もっと日本での生活を続け、日本社会を知りたいという思いが第一でした。日本は環境もよく、きれいで、社会も安定しており生活しやすい場所だと思います。
2. 2007年1月ごろから情報収集を始めました。3月ごろに会社説明会に参加し、最終的に面接を受けた会社は3社でした。
3. 企業分析と、エントリーシートに苦労しました。
4. なんとといってもプレゼンテーションの技術です。これは、会社に入ってから必要になると思います。
5. SPIは途中であきらめました。インターネットではリクナビを使用しました。
6. 仕事の内容は設計開発です。配属は入社後に決まります。

7. 設計に関するプロジェクトのマネージャーになるのが将来の目標です。
8. できるだけ多くの情報を集めること、それと同時に自分が本当にやりたいことは何なのかよく考えることが大切です。学内推薦をもらえば、案外スムーズに就職先を決めることもできます。がんばってください。

林 徳偉さん

(国籍：中国 工学研究科修士2年 就職先：スズキ(株))

1. まず、自動車メーカーに勤めたいということがありました。日本の自動車技術に関する研究、開発は世界の最高水準にあり、ぜひ日本で就職したいと思いました。また、大学で学んだことを活かして、社会の経験を身につけたいという気持ちもありました。
2. 5社です。
3. 言語の面は苦労しました。面接の際、筆記試験の日本語長文読みの部分なども大変でした。また、「少しでも給料の良い会社があると転職する」「日本語が不十分で上司の指示が分からない、現場技術者へ説明ができない」「仕事をおぼえるとすぐに帰国する」などといった留学生のイメージで、面接の際に圧迫面接を受けるケースが多く、どのように対処するかが試されるところです。
4. 自分の研究を十分に把握し、積極的に取り込むことです。それから言語の能力をしっかり身につけることです。例えば、TOEICテストは受験しておいた方がいいと思います。
5. SPIの対策の本に関しては市販のものでしたら、大体同じだと思います。企業にもよりますが、SPI 2、WEBテスト、専門科目筆記試験が出る場合もあります。また、エントリーシート、Eメール、履歴書、就職活動書類の書き方に関する参考書もあった方が便利です。就職情報サイトはリクナビを使いました。
6. 配属は研修後に決定されます。
7. エンジン的一部分の設計を担当していることが希望です。
8. 細心さと大胆さで、計画性のある行動を取る！一度決めたことは粘り強く取り込む！

胡 望さん

(国籍：中国 社会情報学研究科修士2年 就職先：(株)ミスターマックス)

1. 中国で就職することも考えましたが、経験や情報がない私にはそれも難しいことでした。日本に留学したのですから、日本語中国語両方を使って日本で就職することができるのではないかと考えました。
2. 2007年2月です。ちょっと遅かったかなと思います。
3. 日本語の問題です。私の目指したサービス業では、かなりレベルの高い日本語を要求されます。大学での勉強にはほとんど問題はありませんでした。働くためにはより高度な日本語が必要なのだと痛感しました。理系の方とは少し違うところかもしれません。
4. 意外なことかもしれませんが、アルバイトが役に立ちました。一つにはサービス関係のアルバイトだったので、自分の目指す仕事と関係ができて、サービスの基本を学べ

たことです。さらに、サービス業ではお客様や社員とのコミュニケーションが多いので、日本語の会話や対応も自然に身につきました。

5. SPIはあまり勉強しませんでした。必要のない会社もありました。
6. まだわかりません。希望は、商品開発課のバイヤーです。
7. この会社でバイヤーをさせてもらえていればいいなと思います。中国と日本をいったり来たりして、自分が選んだ商品を紹介できるとうれしいです。
8. 相手が何を求めているのかよく考えることです。そして、イメージトレーニング。面接のときにも、何を聞かれるだろう、そのとき自分はどうか答えるだろうというシミュレーションが大切です。それが十分にできれば、おちついて面接もうけることができると思いますよ！

***** 編集後記 *****

園田智子（群馬大学留学生センター講師 相談指導部門担当）

十分な準備期間もないまま行ったはじめての留学生就職報告会でしたが、協力してくださった皆さん、参加者のみなさんのおかげで無事修了することができました。来年度はより多くの皆様のご参加をお待ちしています。そして、就職する皆さんには今後のますますのご活躍をお祈りします。また、これから就職戦線に飛び込む皆さんには熱いエールを送りたいと思います。いつか、「留学生の」という言葉が必要なくなるほどに多様化した心豊かな社会となることを祈って。

平成18年における留学生等の日本企業等への就職状況について

1. 留学生等の入国・在留状況の概要について

「留学」の在留資格による平成18年における新規入国者数は、平成17年と比べ3,253人（13.9%）増の2万6,637人となり、「就学」の在留資格による平成18年における新規入国者数は、平成17年と比べ1,045人（5.8%）増の1万9,135人となっている。それぞれ平成16年にいったん減少したものの、平成17年以降は再び増加している。平成16年に減少した原因として、不法残留者の増加や犯罪の多発に対応するため、平成15年11月から、留学生及び就学生の勉学の意思・能力や経費支弁の能力の有無等許可要件に適合するか否かの審査を実施した結果、これらの許可要件に適合しないと判断された留学生等が相当数に上ったこと等が考えられる。「留学生の受入れ推進施策に関する政策評価書」（平成17年1月総務省）においては、留学生全体として学業成績等質が低下しており、留学目的である学位を取得できない者や不法残留者が増加している旨指摘されており、引き続き適正な受入れに努めていく必要があると考えられている。

平成18年の新規入国者数を地域別に見ますと、「留学」及び「就学」（以下「留学生等」という。）のいずれについてもアジアからの学生が大部分を占めている。

2. 留学生等の日本企業等への就職状況の概要について

平成18年においては、「留学」及び「就学」の在留資格を有する外国人（以下「留学生等」という。）が本邦の企業等への就職を目的として在留資格変更許可申請を行った件数は9,034人で、このうち8,272人が許可されており、前年の許可数である5,878人より2,394人（40.7%）の増加となっている。

平成18年における許可状況を主な国籍・地域別内訳で見ると

- | | | |
|-----------|--------|---------------------|
| ① 中 国 | 6,000人 | （前年比 1,814人、43.3%増） |
| ② 韓 国 | 944人 | （前年比 197人、26.4%増） |
| ③ 中国（台湾） | 200人 | （前年比 32人、19.0%増） |
| ④ バングラデシュ | 119人 | （前年比 62人、108.8%増） |
| ⑤ マレーシア | 118人 | （前年比 49人、71.0%増） |

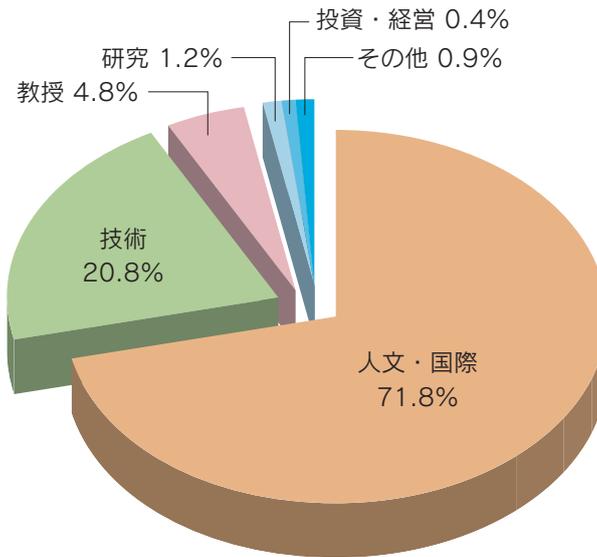
となっている。

なお、在留資格別等内訳は次のとおりである。

（1）在留資格別内訳

「人文知識・国際業務」が5,938人（71.8%）、「技術」が1,720人（20.8%）となっており、これら2つの在留資格で全体の92.6%を占めている。

変更許可後の在留資格別構成比（平成18年）

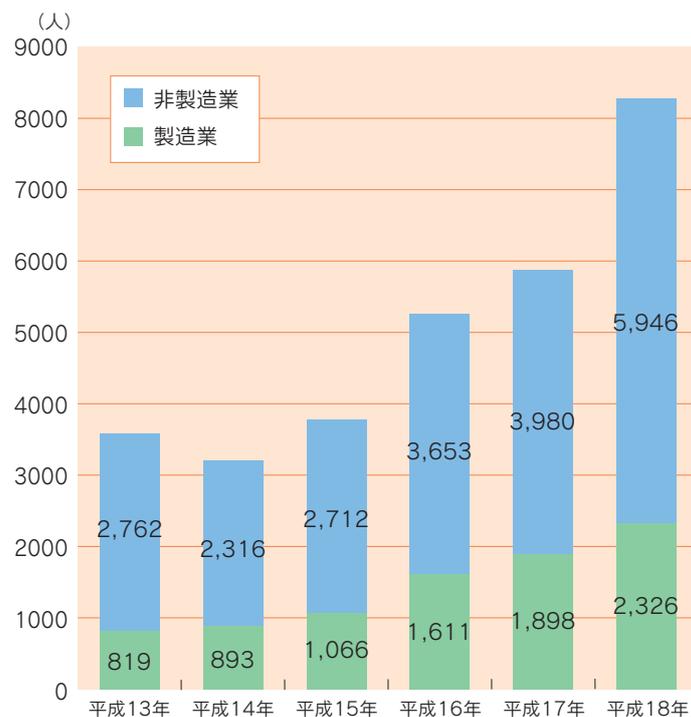


（2）就職先の業種

非製造業が5,946人（71.9%）、製造業が2,326人（28.1%）となっており、前年に比べ全体に占める非製造業の割合が増加している。

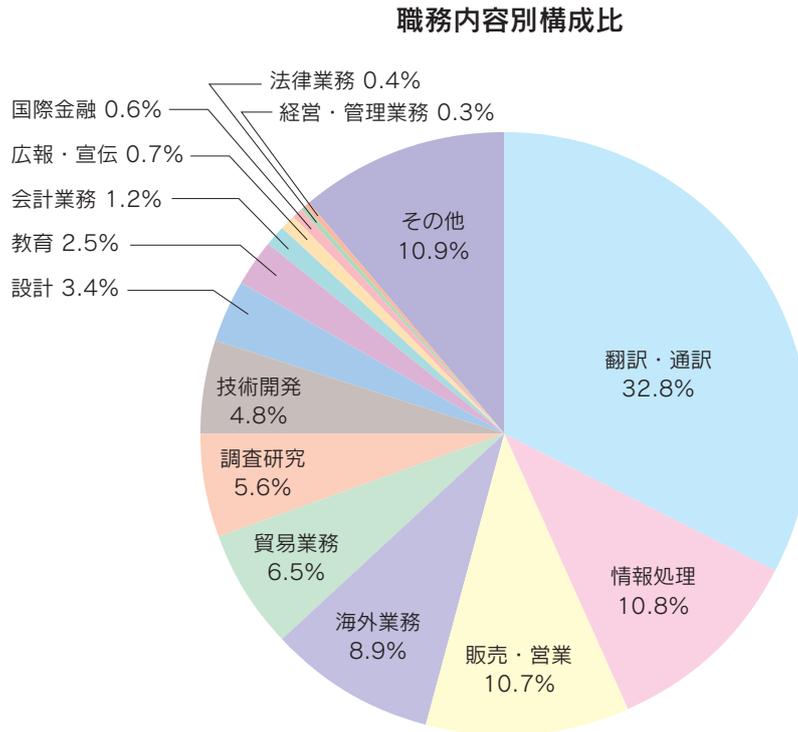
なお、非製造業では、商業・貿易分野、コンピューター関連分野及び教育分野がそれぞれ1,792人（21.7%）、1,140人（13.8%）、479人（5.8%）と上位を占めており、製造業では、機械分野及び電気分野がそれぞれ439人（5.3%）、333人（4.0%）と上位を占めている。

業種別許可人員の推移



(3) 就職先の職務内容

翻訳・通訳が2,711人（32.8%）で最も多く、前年に比べ642人（31.0%）増加した。次いで、情報処理（893人）、販売・営業（882人）、海外業務（732人）の順となっており、特に情報処理については、前年の約1.6倍と昨年に引き続き著しい増加傾向を示している。また、これらの職務内容に従事する者は5,218人で全体の63%を占めている。



(4) 就職先企業等の所在地

東京都に所在する企業等に就職した者が3,892人（47.1%）と最も多く、次いで大阪府919人（11.1%）、愛知県570人（6.9%）、以下神奈川県、福岡県、埼玉県の順となっている。

なお、群馬県に所在する企業等に就職した者は44人（0.5%）。



群馬大学留学生就職報告会2007

国立大学法人 群馬大学留学生センター

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

TEL 027-220-7627

FAX 027-220-7630

E-mail g-exchange@jimugunma-u.ac.jp

<http://ryugaku-ce.aramaki.gunma-u.ac.jp/>

Center for International Studies , GUNMA UNIVERSITY.

4-2 Aramaki-machi, Maebashi City, Gunma, 371-8510 Japan

TEL +81-27-220-7627

FAX +81-27-220-7630

この報告書は、経済産業省・文部科学省「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業の委託費により作製されました。